クラブ特集 ～私たちがんばってます～

浦和クラブジュニア／太陽フェニックス

精鋭集めチームワーク武器に切磋琢磨

劇的勝利で初代王者に輝く

第1回W―CUP2021少年野球大会が7月22～24日、渡良瀬総合グラウンドで行われた。決勝戦では浦和クラブジュニア（さいたま市）が7―6で鴻巣ライオンズを下し、初代王者に輝いた。3―6で迎えた最終回に押し出しや相手投手の暴投などで一挙4点を奪い逆転サヨナラ勝ちを収めた。さいたま市スポーツ少年団野球部会浦和の所属チームから選抜された同チームは、今季の県学童軟式野球（ガスワンカップ、7月）で8年ぶりに優勝。関東大会（9月）でも優勝を目指す。

関東の壁も越える

さいたま市スポーツ少年団野球部会浦和に所属する27チームから選抜された精鋭たち。それが浦和クラブジュニアだ。箭原丈琉（やはら・たける）主将（6年）は「最初に集まった時から、みんなが仲良くてやりやすいチームと、抜群のチームワークに胸を張る。

W―CUPでも、その最大の武器を生かした。準々決勝では0―4からひっくり返し、決勝でも5回まで0―5のビハインド。6回裏に4番武政勇斗（6年）の適時二塁打などで2点差とし、3―6となった7回裏には先頭の6番藤岡拓叶（たくと、6年）から押し出し四球、内野ゴロ、最後は相手投手の暴投で初代王座をもぎとった。諦めずに最後まで集中力を切らさなかったナインに、勝谷健志監督（55）も「全員でつなぐ意識を強く持ってくれた」と、褒め称えた。

セレクションを経て4月の集合日に、「このチームを県大会優勝、関東大会優勝に導きたい」と言い放ったのが箭原主将。「元々、実力がある選手ばかり。僕は声を出していくだけ」と謙遜する主将だが、そのキャプテンシーに引っ張られ、ナインもその気になった。武政は「素振り300本か羽根打ち250本」を自らに課し、「スイングスピードが上がった」。投手陣も守屋建汰、伊藤大翔（ともに6年）の速球派2本柱を軸に、切磋琢磨を繰り返して7月の県大会を制した。

公約の一つめを果たした箭原主将は「連係面はまだ上げられる。もっと声を出して、必ず関東も優勝する」と、課題も挙げながら誓った。勝谷監督も「このメンバーで負けられない」と手ごたえは十分。努力に裏打ちされた実力と、強い思いで結ばれているナインの絆で、関東の壁も乗り越える。

チームの先頭に立つ箭原主将㊧と主砲の武政

浦和クラブジュニア

学年	選手名
⑥	箭原　琉丈
⑥	五十嵐　巧
⑥	佐藤　琥珀
⑥	春山　海翔
⑥	原田　奨大
⑥	藤堀　輝
⑥	内田　夏翔
⑥	袴　翔吾
⑥	藤岡　拓叶
⑥	樋口　芳就
⑥	小島　楽生
⑥	金子　慶次郎
⑥	瀬川　奏太
⑥	山　啓太
⑥	丸梶　晴晃
⑥	守屋　建汰
⑥	武政　勇斗
⑥	相馬　一太
⑥	益田　琉希
⑥	伊藤　大翔
⑥	栗原　健
⑥	小日向　範人
⑥	羽鳥　航平
⑥	石井　海舟

関東制覇も狙う浦和クラブジュニア

◆W―CUP　埼玉、茨城、栃木、群馬の4県32チームが参加し、7月22～24日の3日間の日程で開催された。開催へ尽力した茨城・上辺見ファイターズの板橋勲監督は「コロナ禍で大会が壊滅的に少なくなったことから親交のあるチームに声をかけ、賛同してもらった。コロナの状況にもよるが、今後も継続していきたい」と話した。

準々決勝

鴻巣ライオンズ	7―0
南川崎ゴールデンアロー	5―3
熊谷グリーンタウン	10―1
浦和クラブジュニア	7―6

準決勝

鴻巣ライオンズ	3―2
浦和クラブジュニア	5―2

決勝

浦和クラブジュニア	7―6
鴻巣ライオンズ	

美谷本ファイターズ	
城ノ上ネイビーフィアターズ	
上高野クリッパーズ	
足利南クラブ（栃木）	

切れ目ない打線と二枚看板の継投で躍進

3年ぶり6度目Vで今季3冠

第44回埼玉県スポーツ少年団ソフトボール（男子）中央大会が7月31日、8月1日の2日間、さいたま市荒川総合運動公園で行われた。さいたま市対決となった決勝戦では、太陽フェニックスが7―2で常盤スポーツ少年団を下し3年ぶり6度目の優勝を飾った。序盤から自慢の強力打線が力を発揮し春季全国予選（昨年12月）、関東予選（6月）に続き今季3冠目となった。

苦い経験胸に戦う

太陽フェニックスがパワーアップした姿で、今季3冠目を獲得した。1回表、1死から9番大沢海斗（5年）のバント安打、3番中川善（6年）の左三塁打、4番竹出祐之進（5年）の右前適時打と3連打で2点を先制。その後も攻撃の手を緩めず小刻みに加点しながら、5回表には5番山崎晃史（6年）の2点二塁打などでダメを押した。

植野勝也監督（52）は「一段とパワーアップしてくれたね」と、持ち味を発揮しての勝利に、納得した表情で話した。その要因の一つが、竹田の存在だ。2年時から続ける水泳で活躍しながら「同じ学校の山崎君たちが頑張っているのを見て」と、この4月に加入。自宅でのティー打撃などの努力で6番、3番と昇格して今大会から4番に座り「竹田が入ったことで、下位まで厚みを増した」と植野監督と切れ目のない打線となった。

投手陣では昨年の全国予選では2番手だった山崎が「オフの間も一人で壁当てなどをやった」と、急成長。この日も4回まで2安打無失点、9奪三振の快投を見せた。エースだった中川善を抑えに回せることで失点の計算も立ち、投打でリズムの良さと余裕が生まれた。

春の全国大会（3月）では初戦敗退を喫し、夏の全国予選（5月）では決勝で久下ドルフィンズ（熊谷市）に苦杯をなめた。熊坂武大（たける）主将（6年）が「今日は最後まで気を緩めずに戦えた」と話したのも、その苦い経験があるから。9月の県民スポーツ大会で、最後の4冠目獲得へ死角は見せない。

4回で9奪三振と力投した山崎

3年ぶり6度目の優勝を飾った太陽フェニックス

太陽フェニックス

学年	選手名
⑥	熊坂　武人
⑥	中川　善
⑥	坂本　陸斗
⑥	山崎　晃史
⑥	若松　美佐樹
⑤	竹田　祐之進
⑤	中川　真
⑤	中村　美輝
⑤	高橋　実暉
⑤	菅野　秀星
⑤	栗原　歩夢
⑤	大沢　海斗
⑤	尾崎　潤
④	川出　希彩
④	本　将
④	達　一登
④	石田　悠眞
③	山内　月葉
③	江橋　遼
③	河野　秀一
②	栗原　大夢

【男子】
▽決勝

太陽フェニックス	2 1 0 0 0 0 2	3 / 7
常盤スポーツ少年団	0 0 0 0 0 0 1	1 / 2

（時間制限により5回終了）
（太）山崎、中川善―中村
（常）稲見、菅原―鈴木、稲見

【男子】
▽準決勝

太陽フェニックス	8―0	長瀞スターズ
常盤スポーツ少年団	10―8	東内野少年ソフト

（太）中村、中川真、山崎
（常）

◆取材にうかがいます

さいたま報知ではこのコーナーの掲載クラブを募集しています。競技にかける熱い気持ちを持つチームに取材にうかがいます。応募は〒108-8485報知新聞社販売局「さいたま報知・クラブ特集係」、FAX03・5479・1229、https://www.saitama-hochi.comまで。お待ちしております。

プレゼント

▽ジャイアンツ坂本・丸・岡本3選手サイン入りタオル　ジャイアンツの坂本勇人選手、丸佳浩選手、岡本和真選手のサインがプリントされたスポーツ報知オリジナルタオル（写真）を、5名様にプレゼントします。※直筆サインではありませんのでご注意ください。

ご希望の方はハガキに住所、氏名、8月号の面白かった記事、紙面に対する感想を明記の上、〒108―8485　報知新聞東京本社販売局「さいたま報知8月号プレゼント係」までお送りください。締め切りは8月30日（月）必着。当選者の発表は発送をもって代えます。

尚、9月号より皆様からお寄せいただきました貴重な感想の一部を掲載させていただきます（お住まいは市町村まで、お名前はイニシャル表記といたします）。奮ってご応募ください！